

令和5年度事業報告

I 概要

令和5年度は5月に新型コロナが5類に移行したため、ほぼコロナ前の活動量になったと言える。登山では全日本登山大会が5年ぶりに千葉県で開催され、SC競技は例年実施の8競技大会のほか、4月に八王子市でボルダーワールドカップが開催された。SC競技選手は、海外においても目覚ましい活躍を見せ、パリオリンピック2024に3名の出場が決定している。山岳スキーは2026年の冬季オリンピックを目指し、海外での選手強化に励んできた。

一方、年度当初に発覚した前年度の大幅赤字への対応として、理事は当然のことながら正会員を含め年間を通して各種の対策を行ってきた。

その一つは原因究明と責任追及であり、もう一つは厳しくなった財務状況を踏まえた運営面の見直しを行った。

原因究明については、8月から赤字検証委員会を開催し、10月に報告書が提出された。更に検証報告を基に監事による責任追及に関する報告書が3月5日に提出された。

運営面については、4月から6月は従前のやり方によるSC競技会運営で赤字が発生したが、その後は業務執行を予算内に収まるよう努めた。また、基金制度を創設し、財務状況の改善を図った。

II 事業総括

(1) 競技系

スポーツクライミング競技では、前述の様に4月～6月に行われたワールドカップのほか4大会は前年の流れをそのまま引き継ぎ、支出オーバーとなった。しかしながら、その後の大会に関しては引き締めがしっかりとなされ、一年を通して予定されていた全ての大会を開催できた。選手強化においても交付された補助金に応じ取り組んでいる。

こうした中、令和7年4月の協賛会社等との新契約成立に向けて、早いうちの対応が求められている。

山岳スキー競技は、立ち上がりには時間がかかったが、補助金を活用して積極的に海外で強化合宿を行うなどオリンピックを目指し力が入ってきている。

(2) 登山系

国際・AC委員会が少しずつではあるが勢いを取り戻す様子が見られ、海外登山奨励金ばかりでなく、ウインタークライマーズミートなど冬季登攀についても全国のクライマーを集めて行っている。若いというより中堅のクライマーが率先して引っ張っている。

自然保護や遭対指導もランクを上げた講習会など少ない予算でも事業効果が上がるよう工夫してきた。

また、財政面で厳しくなっていることから、登山系財源の柱である山岳共済会と

登山系各委員会との事業における密接な連携を図ることにより、一般登山者にも加入していただき、財政の改善へとつなげて行こうとする動きが強まっている。

(3) 総務・独立系

表彰については、日本登山界に関係する表彰が規定通りにはいかなくなっていることから、見直すこととなっていたが、赤字問題対応が主となったことで、次年度へ先送りとなった。

AD/倫理研修は、競技団体として必須事項であり、他の委員会と共同で行っているものの、現在の2名のガバナンス委員会委員には大きな負担がかかっている。

月報/HPはJMSCAの顔として常に新鮮な情報を提供するよう努めてきた。

また、JMSCAと多くの皆さまを結びつけるシステムとして準備されてきたJMSCAフレンドの会員募集が開始となった。

III 組織運営及び財政の確立

(1) 運営

赤字問題の発覚後、原因究明と責任追及に終始してきたが、その間に組織の在り方や本来為すべきことは何かということを検討してきた年度であった。その根拠となる「組織管理運営規程」の見直し開始し、現在、道半ばとなっていることから早期に取りまとめていく必要がある。

また、SCの主要8競技会開催をマネージメントする者を初めて業務委託とする試みを行い、一定の成果を上げることができたが、次年度も同様に効果が期待できるか注視している。

(2) ガバナンス

例年、ガバナンスコードについて上部団体から指導があり、これを徹底していくための研修をすべきであったが、赤字問題対応に終始したことで、疎かになったことは否めず、次年度に向けて徹底していくこととしている。

(3) 財政

赤字問題発覚後、財務管理にはいくつかの新しい取り組みを導入した。

その一つが高額の予算執行を事前に整理して内部で共有する執行伺い制度の導入である。また、毎月の財務委員会においては、予算執行状況やキャッシュフローの様子を把握し、事態の悪化を防いできた。

更に基金制度の導入と関係各位のご協力により、債務超過の事態を避けることができた。

(4) 組織基盤強化

赤字問題に関し年度を通じて組織体制が揺らいできたが、年度最終版によりやく区切りがつき、次年度への見通しがついてきた。

事務局体制についても同様であり、年度後半に新たな職員の雇用により、新体制がスタートした。

今後は、1日も早く加盟団体、理事、委員会、事務局が一体となり、強固な組織基盤ができるよう努めていく。

(5) 会員状況

会員の状況は以下の通りである。(2024年4月1日現在)

(ア) 正会員 71名(加盟団体48名・学識経験者23名)

(イ) 賛助会員 団体 9社

(ウ) 賛助会員 個人 85名(入会1名、退会3名、逝去1名)

賛助会員は100名を切ると税額控除団体から外れることになるので、会員の確保に最大限努めなくてはならない。

(6) 収支報告概要

(ア) 貸借対照表(Page1)

正味財産は、20百万円となり、5百万円減っている。しかし、全国の正会員、岳連、顧問や理事に依頼し、第1期募集の基金が27百万円余集まり、このことにより債務超過を回避できた。また、銀行だけでなく、篤志家からの50百万円の借入が資金繰り改善に大きく貢献した。

(イ) 正味財産増減計算書(Page 2-4)

令和5年度の収入は519百万円(対前年度比109%)、支出は557百万円(対前年度比97%)となり、全体としては事業費の旅費交通費が50百万円支出減となるなどしたが約38百万円の最終赤字となった。これは前年度のままの運営方法で4月から6月に実施したSC競技大会による支出が大きく影響している。

(7) 経営上の課題と対策

2019年の世界選手権の赤字の後、予算執行管理に関する運用規律を策定した。しかしながら2022年度は十分に機能せず、大きな赤字を生んだ。

この反省に立ち、財政再建委員会を設置することとしているが、まずは2023年度の後半に財政再建計画作成準備委員会を立ち上げ、財政再建骨子案を策定するなどの対応を行っている。

今後の定時総会を踏まえ財政再建委員会を本格稼働させて、財政再建を進めていく。

以下、課題と対策になる。

課題：JMCAの事業全体が収入に見合った規模を超えている

対策：実施する事業を見直す。実施事業を優先順位の高いものに限定し、集中と選択を行っている。

課題：経費を節減するチェック機能が脆弱

対策：一定額以上の金額を発注する際は必ず、

1) 当該発注が必要である事、

2) 見積もりを取得し発注金額が適正である事、

について事務局または財務委員会の承認を得ることを義務付けるプロセスを導入した。

課題：予算を管理する体制が脆弱

対策：財務委員会で毎月の各委員会予算執行状況を共有し、執行実態を確認し議論することより、理事会による管理機能を働かせる。また、各委員会において実施する重要事業（注 1）の収支結果を理事会で共有し、理事会において適正な予算執行がなされたか否かのチェック機能を働かせる。

（注 1）重要事業とは、競技大会など予算規模が大きい（1,000 万円以上）個別の事業のことをいう。

課題：事業資金（キャッシュフロー）の確保

対策：キャッシュフローの中期的展望をモニタリングしつつ、複数の資金調達手段を確保しながら、必要に応じて資金調達していく。

以上

IV 事業内容

令和5年度の事業の一環として以下の日程が設定されている。

監事監査 期末監査 2024年 5月30日(木)、31日(金)

令和6年度総会 2024年 6月23日(日)

2023年4月1日～2024年3月31日までの令和5年度事業結果について記す。

網掛けはJSC補助事業。

1. 安全登山普及事業

網掛けはJSC補助事業。

(1) 青少年育成事業(普及委員会)

ア) 高体連登山専門部関連

- ① 第67回全国高等学校登山大会の開催 令和5(2023)年度北海道大会
8月7日(月)開会式、旭川市民文化会館8月7日(月)～10日(木)登山行動
8月11日(金)閉会式、山域は大雪山系、十勝山系
選手・監督 455名参加(役員100名以上含む)

- ② 第14回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会開催
12月23日(土)～24日(日)埼玉県加須市市民体育館

イ) ジュニア登山教室

- ① 「少年少女登山教室」の開催(委託実施)
15県に対して実施、8月末で受付終了。

(2) 登山に関する文化・学術の振興事業(普及、総務委員会)

ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

イ) 登山に関する情報・資料の収集

ウ) 表彰・感謝状・推薦・顕彰

- ・2023年度実施各競技大会入賞者(1位～3位)表彰
- ・第60回全日本登山大会功労者特別表彰(10回以上の参加者)及び開催地関係者への感謝状(団体)贈呈
- ・2023年度永年参与感謝状贈呈
- ・特別功労者表彰
- ・第13回日本山岳グランプリの公募と顕彰
- ・2023年度各種スポーツ賞表彰候補者の推薦
朝日スポーツ賞、日本スポーツ賞、毎日スポーツ人賞、ビッグスポーツ賞、ミズノスポーツメントール賞、日本スポーツグランプリ等
日本スポーツ賞優秀選手:安楽宙斗を推薦、決定した。
- ・2023年度日本スポーツ協会公認スポーツ指導者表彰候補者の推薦
- ・2023年度自然公園指導員自然環境局長表彰候補者の推薦

- ・2024年度叙勲及び褒章候補者の推薦
- エ) 2023年度海外登山隊奨励金の公募と選考(国際事業の項)
 - パキスタン ガンバルゾム(6518m) 北壁
 - 西ネパール ツクチェピーク前衛峰(6490m) 北東面壁
 の2隊に奨励金を交付した。
- オ) 各種登山・山岳スポーツ大会・山岳文化講演会等の後援
- カ) 日本山岳文化学会等と連携しながら、山岳文化の普及・振興を図る

(3) 安全登山の啓発事業(普及、遭対、国際の各委員会)

普及委員会

- ア) 安全登山指導者研修会(国立登山研修所他共催)の実施
 - ① 東部地区(福島県) 10月20日(金)～22日(日) 参加者 29名
 - ② 西部地区(奈良県) 11月10日(金)～12日(日) 参加者 22名

- イ) 安全登山事業(国立登山研修所と共催、普及委員会より)
 - ① 高等学校登山夏山基礎講習会
 - 6月23日(金)～25日(日) 国立登山研修所・大品山から瀬戸蔵山
 - 参加者 4名
 - ② 登山指導者リスクマネジメント研修会 本年は開催せず
 - ③ 安全登山サテライトセミナー
 - 8月11日(金、祝) 富山県立山カルデラ砂防博物館で実施。
 - 対面 37名 Web 110名
 - 東京会場: 12月2日(土)3日(日) 国立オリンピックセンター
 - 参加者: 196名
 - 11月23日(木、祝) 名古屋工業大学
 - 参加者: 会場 99名、オンライン 85名 合計 184名
 - ④ 登山リーダー夏山研修会 8月20日(土)～25日(金)
 - 国立登山研修所及び劔岳周辺 参加者 27名
 - ⑤ 山岳遭難救助研修会
 - 10月2日(月)～6日(金) 国立登山研修所及び周辺山城 参加者: 32名
 - ⑥ 積雪期登山基礎講習会
 - 2024年2月2日(金)～4日(日) 国立登山研修所及び周辺山城 参加者: 25名
 - ⑦ 登山リーダー冬山研修会
 - 2024年3月8日(金)～13日(水) 国立登山研修所及び周辺山城 参加者: 22名

- ウ) 第59回全日本登山大会の開催
 - 2024年2月17日(土)～18日(日) 千葉県
 - 参加者: 143名(加盟団体 53名、一般登山者 46名、千葉県スタッフ 44名)

エ) 第7回「山の日」全国大会 おきなわ 2023

8月10日(木)～11日(金) 国頭村、大宜味村、東村、武富町

参加者：約6000名(式典：約1000名、イベント：約5,000名)

遭対委員会

ア) 山岳レスキュー講習会

① 無雪期(富山県・国立登山研修所) 9月22日(金)～24日(日)

参加者45名(クラス1-3 28名、スタッフ 17名)

② 積雪期(群馬県・土合山の家) 2024年1月19日(金)～21日(日)

参加者47名(クラス1-3 31名、スタッフ 16名)

イ) 地方講習会講師派遣事業(新規)

地方(各都道府県)で開催される講習会へ、要請に応じて講師を派遣する計画だったが資金不足のため中止となった。

ウ) 研修及び研究会

① 遭対常任委員研修会

資金不足のため中止となり、代わりに以下の小規模の講習会準備会を実施した。

9月3日(日) 神奈川県秦野市

9月10日(日) 山梨県山梨市

2024年1月7日(土)～8日(日) 栃木県那珂町

内容：無雪期レスキュー講習会の反省と積雪期レスキュー講習会に向けた準備。

② 全国遭難対策委員長会議・研修会

遭難対策委員長会議・研修会 6月24日(土)～25日(日)

開催場所：東京スポーツ文化館 参加者 78名

エ) 全国山岳遭難対策協議会 7月7日(金)

開催場所：文部科学省講堂 参加者 対面95名、Web 560名

オ) 減遭難活動

道迷い防止の登山道標の整備、登山届提出用のポスト設置の活動に取り組んでいる都府県を支援。候補地として山梨県と他1-2か所を設定、全国遭難対策委員長会議を通し、活動の呼びかけを行う。

カ) 遭難事故防止のための研究・指導及び実態調査

減遭難キャンペーン「ストップ・ザ1000」の啓発活動

キ) 令和5年度全国山岳遭難対策協議会の共催(スポーツ庁他)

ク) 山岳保険加入者の事故調査(報告書作成/HP掲載)

ケ) 遭難事故の調査研究

- ・遭難事故に関する調査研究(委託事業)
- ・遭難事故の科学的分析

ク) 遭難事故科学的研究・他支援

- ・ IMSARJ 研究助成支援（継続）
- ケ）遭対委員会 年間オンライン等
- コ）「国内旅行傷害保険包括契約」実施

国際・アルパインクライミング委員会

- ア）令和5年度国際委員ミーティング及び第59回海外登山技術研究会
日程：6月3日（土）～4日（日）
場所：福井県 福井市地域交流プラザ・アオッサ 参加者：約40名
- イ）第1回アルパインクライミング懇談会
日程：11月21日（火）
会場：錦糸町墨田産業会館 参加者：81名（会場45名、オンライン36名）
- ウ）助成事業
国内ウインタークライマーズ・ミーティング
日程：2024年1月27日（土）～28日（日）参加者：49名（スタッフ10名、会場39名）

（4）登山指導者育成事業（指導委員会）

- ア）指導員研修会
 - ① 全国指導委員長会議
6月3日（土）～4日（日）埼玉県県民活動総合センター
参加者：78名（対面38名、Web 39名）
SC部指導委員会は6月3日の後半で実施
 - ② 登攀技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）
11月4日（土）～5日（日）静岡県領家公民館、息神社境内
参加者42名
（A級主任検定4名、コーチ2養成 18名、講師4名、静岡県スタッフ7名）
 - ③ 氷雪技術研修会（A級主任検定員・コーチ2養成講習会）
2024年 2月 3日（土）～ 4日（日）鳥取県大山
参加者 21名
（研修10名、A級主任検定1名、コーチ2養成2名、講師2名、鳥取県スタッフ6名）
 - ④ A級主任検定員・コーチ2養成講習会
2024年 3月16日（土）～17日（日）谷川岳度合山の家
参加者 17名（A級主任検定4名、コーチ2養成 8名、講師3名、群馬県スタッフ2名）
 - ⑤ 公認スポーツ指導員コーチ1,2 主任検定員の養成
 - ⑥ 夏山リーダー講師養成

JMSCA 公認夏山リーダー検定会

東京都山岳連盟

日時：2024年3月2日（土）～3日（日）

場所：都岳連事務所・飯能市 天覚山周辺 受講生：3名 講師：2名

京都府山岳連盟夏山リーダー検定会

日時：2023年11月11日（土）～12日（日）

場所：京都府民総合交流プラザ、京都周辺の山 受講生：10名、講師：3名

日時：2023年11月11日（土）～19日（日）

場所：亀山市交流会館 受講生：11名、講師：6名

岩手県山岳連盟

日時：2023年9月9日（土）～10日（日）

場所：国立岩手山青少年の家 受講生：3名、講師：4名

埼玉県山岳連盟

日時：2023年11月12日（日）～13日（月）

場所：浦和コミュニティセンター 受講生：11人、講師：5人

神奈川県山岳連盟夏山リーダー講習会

【1期】

日時：2023年5月13日（土）、14日（日）、6月3日（土）、4日（日）

場所：表丹沢 受講生：10名、講師：3名

【2期】

日時：2023年10月28日（土）、29日（日）、11月11日（土）、12日（日）

場所：表丹沢 受講生：10名、講師：3名

イ) 夏山リーダーUIAA 視察

西部 講習会 11月23日（木）、25日（土）、26日（日） 受講者4名

西部 検定会 3月20日（水）、23日（土）、24日（日） 受講者3名

東部 講習会 12月3日（日）、9日（土）、10日（日） 延期

東部 講習会 3月20日（水）、23日（土）、24日（日） 受講者14名

ウ) 委員会等

①指導常任委員会 年間オンライン会議

②夏山リーダー分科会 年間オンライン会議

エ) 国立登山研修所事業への協力

2. スポーツライミング事業

(1) 競技会運営事業(競技委員会)

公認大会・予選会実施の推進

ア) 競技会・研修会の開催

① ボルダー&リードジャパンカップ 2023 (BLJC2023)

4月8日(土)～9日(日) 鳥取県倉吉体育文化会館

参加選手 : 66名(男子33名、女子33名)

	男子	女子
第1位	安楽 宙斗	森 秋彩
第2位	百合草碧皇	松藤 藍夢
第3位	緒方 良行	野中 生萌

② IFSC BWC 八王子

4月21日(金)～23日(日) エスフォルタアリーナ八王子(八王子市総合体育館)

40か国 171名(男子95名、女子76名)

大会翌日に International Training Camp を企画、トレーニングセッション、ワークショップを開催した。上位日本人選手の成績は以下のとおり。

	男子	女子
第3位		松藤 藍夢
第4位	藤井 快	
第5位	安楽 宙斗	

③ スポーツライミング第11回リードユース日本選手権南砺大会

5月27日(土)～28日(日) 富山県南砺市・桜ヶ池クライミングセンター

参加選手 : 276名(男子141名 女子135名)

ユース B	男子	女子
第1位	長森 晴	小田 菜摘
第2位	濱田 琉誠	麦島 心花
第3位	戸田 稜大	山根 嘉穂

ユース A	男子	女子
第1位	小俣 史温	望月 萌叶
第2位	石津 元崇	山 真奈実
第3位	船木 陽	柿崎 咲羽

ジュニア	男子	女子
------	----	----

第1位	村下 善乙	高尾 知那
第2位	鈴木 音生	葛生 真白
第3位	関口 準太	小倉 紗奈

④ スポーツクライミング第9回ボルダージュース日本選手権鳥取大会

6月10日(土)～11日(日) 鳥取県倉吉体育文化会館

参加選手： 314名(男子168名、女子146名)

ジュニア	男子	女子
第1位	田宮 瑛人	小倉 紗奈
第2位	関口 準太	竹内 亜衣
第3位	篠沢 諒	葛生 真白

ユースA	男子	女子
第1位	寺川 陽	村越 佳歩
第2位	杉本 侑翼	山 真奈実
第3位	加藤 頼斗	永嶋 美智華

ユースB	男子	女子
第1位	長森 晴	松浦 朱希
第2位	笹原 蓉翠	小田 菜摘
第3位	濱田 琉誠	小屋松 恋

⑤ 第3回ユースフューチャーカップ

9月16日(土)～17日(日) 銚田市生涯学習館スポーツクライミングセンター

参加選手： 243名(男子111名、女子132名)

ユースC	男子	女子
第1位	中田 岳	松浦 碧希
第2位	齋木 猛斗	秋山 明日葉
第3位	古川 大智	西 美柚奈

ユースD	男子	女子
第1位	上田 大志	廣瀬 堇
第2位	齋木 郁希	原 菜々瀬
第3位	秋山 千畝	高久 晴希

⑥ 第14回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会

(「青少年育成事業」の項参照)

12月23日(土)～24日(日) 埼玉県加須市民体育館

リード	男子	女子
第1位	藏敷 慎人	永嶋 美智華
第2位	和田 樹怜	小田 菜摘
第3位	通谷 律	山 真奈実

⑦ スポーツライミング・第19回ホルダージャパンカップ

2024年2月10日(金)～12日(日)

九州クライミングベース SAGA(佐賀県立多久高等学校内)

	男子	女子
第1位	緒方 良行	中村 真緒
第2位	檜崎 智亜	野中 生萌
第3位	藤脇 祐二	松藤 藍夢

⑧ スポーツライミング第37回リードジャパンカップ

2024年2月23日(金)～24日(土)

九州クライミングベース SAGA(佐賀県立多久高等学校内)

	男子	女子
第1位	小俣 史温	森 秋彩
第2位	樋口 純裕	小武 芽生
第3位	百合草 碧皇	小田 菜摘

⑨ スポーツライミング第6回スピードジャパンカップ、
第4回スピードユース日本選手権

2024年2月25日(日)

九州クライミングベース SAGA(佐賀県立多久高等学校内)

	男子	女子
第1位	安川 潤	竹内 亜衣
第2位	三田 歩夢	金谷 春佳
第3位	上柿 銀大	林 かりん

ジュニア	男子	女子
第1位	三田 歩夢	林 かりん
第2位	谷井 和季	竹内 亜衣
第3位	山本 恭也	河上 史佳

ユースA 男子	女子
第1位 田淵 幹規	小屋松 恋
第2位 大谷 覇	麦島 心花
第3位 戸田 明稀	南 有紗

ユースB 男子	女子
第1位 柏 龍弥	岡部 朱里
第2位 青木 智久	望月 咲希
第3位 林 晃佑	岡信 葵衣

(2) 国民スポーツ大会スポーツクライミング競技の主管(国スポ委員会)

五輪競技種目化に沿った国民スポーツ大会スポーツクライミング競技の検討
特別国体(鹿児島県)

ブロック研修会の開催 11月～3月 全国9ブロック

- ① 第1回基準会議 5月
- ② 組み合わせ抽選会 場所、JSOSビル 9月9日(土)午後2時
- ③ 各ブロック別大会、都道府県予選大会の開催(委託実施)
- ④ リハーサル大会 6月9日(土)～11日(日)
- ⑤ 本国民スポーツ大会スポーツクライミング競技 10月8日(日)～10日(水)
- ⑥ 特別国体以降の開催県への指導

(3) 強化事業(強化委員会)

ア) オリンピック強化選手の選考

イ) 日本代表選手選考・派遣

- ① 代表(S. A. B)選手の選考

ウ) 代表選手の派遣

- ① IFSCクライミングWC
4月～9月 世界各地
- ② ワールドカップ(ボルダー、スピード) 韓国・ソウル
4月28日(金)～4月30日(日)
- ③ ワールドカップ(スピード) インドネシア
5月6日(土)～5月7日(日)
- ④ ワールドカップ(ボルダー、スピード) 米国・ソルトレイク
5月19日(金)～5月21日(日)
- ⑤ ワールドカップ(ボルダー) チェコ・プラハ
6月2日(金)～6月4日(日)
- ⑥ ワールドカップ(ボルダー) イタリア・ブリクセン
6月9日(金)～6月11日(日)

- ⑦ ワールドカップ (ボルダー、リード) オーストリア・インスブルック
6月14日(水)～6月18日(日)
- ⑧ ワールドカップ (リード、スピード) スイス・ウ “イラルル
6月30日(金)～7月2日(日)
- ⑨ ワールドカップ (リード、スピード) フランス・シャモニー
7月7日(金)～7月9日(日)
- ⑩ ワールドカップ (リード) フランス・ブリアンソン
7月14日(金)～7月15日(土)
- ⑪ 世界選手権 (ボルダー、リード、スピード、コンバイン) スイス・ベルン
8月1日(火)～8月12日(土)
参加選手21名 (以下メダル受賞者のみ記載)
ボルダー&リード
男子 3位 檜崎智亜 女子 3位 森秋彩
リード
男子 2位 安楽宙斗 女子 1位 森秋彩
- ⑫ 世界ユース選手権(ボルダー、リード、スピード) 韓国・ソウル
8月18日(金)～8月27日(日) (以下メダル受賞者のみ記載)
- | | | |
|---------|-------|--------|
| リード U20 | 男子 | 女子 |
| 第2位 | 鈴木 音生 | 高尾 知那、 |
| 第3位 | 村下 善乙 | 小倉 紗奈 |
-
- | | | |
|-------------|-------|-------|
| ユース A (U18) | 男子 | 女子 |
| 第2位 | 小俣 史温 | |
| 第3位 | | 望月 萌叶 |
-
- | | | |
|-------------|-------|-------|
| ユース B (U16) | 男子 | 女子 |
| 第1位 | 濱田 琉誠 | 小田 菜摘 |
| 第2位 | 長森 晴 | 麦島 心花 |
| 第3位 | 戸田 凌大 | |
-
- ボルダー
- | | | |
|------------|-------|----|
| ジュニア (U20) | 男子 | 女子 |
| 第1位 | 関口 準太 | |
-
- | | | |
|-------------|-------|-------|
| ユース A (U18) | 男子 | 女子 |
| 第1位 | 通谷 律 | 村越 佳歩 |
| 第2位 | 加藤 頼斗 | |

ユース B (U16)	男子	女子
第2位	濱田 琉誠	
第3位	長森 晴	小田 菜摘

スピード

ジュニア (U20)	男子	女子
第1位		林 かりん

ユース A (U18)	男子
第3位	谷井 和季

⑬ ワールドカップ (リード) スロバキア・コペル
9月6日 (金) ~9月7日 (土)

⑭ ワールドカップ (リード、スピード) 中国・呉江
9月22日 (金) ~9月24日 (日)

⑮ IFSC アジアユース選手権 2023 中国・重慶

リード ジュニア	男子	女子
第1位	鈴木 音生	高尾 智那
第2位	上村 悠樹	葛生 真白

リード ユース A	男子	女子
第1位	小俣 史温	永嶋 美智華
第3位	和田 樹怜	山真 真奈実

リード ユース B	男子	女子
第1位	長森 晴	
第2位		麦島 心花
第3位	戸田 凌太	

ボルダー ジュニア	男子	女子
第1位	鈴木 音生	
第3位		葛生 真白

ボルダー ユース A	男子	女子
第1位		永嶋 美智華、
第2位	小俣 史温	
第3位	和田 樹怜	山 真奈実

ボルダー ユース B	男子	女子
第1位	戸田 凌大	
第2位		麦島 心花
第3位	長森 晴	松浦 朱希

ボルダー&リード ジュニア	男子	女子
第1位	鈴木 音生	高尾 智那
第2位		葛生 真白
第3位		小倉 紗奈

ボルダー&リード ユース A	男子	女子
第1位	小俣 史温	永嶋 美知華
第2位		山 真奈実

スピードユース A		女子
第2位		河上 史佳
スピードユース B		
第2位		麦島 心花

⑩ パリ五輪アジア大陸予選

インドネシア・ジャカルタ

11月8日(水)～11月12日(日)

- エ) 代表選手強化合宿(海外・国内)
- オ) ユース選手・指導者講習会の開催
- カ) ジュニア・クライマー実態調査に基づく選手、指導者、保護者への
スポーツ障害予防啓発(医科学支援)
- キ) 複合種目(リード、ボルダー)及びスピード種目への取り組み
- ク) 選手の心身面の強化に対する取り組み
- ケ) 競技者育成プログラムの作成と関連事業の検討

(4) 審判・ルートセッター事業(技術委員会)

各種競技会・国体スポーツクライミング競技への支援協力 ルートセッター派遣、
ブロック別研修会講師派遣

- ア) 審判・セッター会議の開催(2月)
- イ) 全国ルートセッター研修会 年2回
 - ・第1回:6月21日(水)、23日(金)、29日(木)
 - ・第2回:12月24日(日)(高校選抜の後)

ウ) ブロック研修会等に合わせたの更新研修会

(5) SC コーチ養成講習会(SC 指導委員会)

日程等については登山部のコーチ養成と歩調を合わせる。

- ① SC コーチ 1,2 養成習会 年 2 回
- ② SC コーチ 3 養成会(補講) 関東地区 年 1 回
- ③ SC 主任検定員養成講習会
- ④ SC コーチ更新研修会 年 2 回
- ⑤ SC コーチ養成用教材作成

(6) スポーツライミング医・科学事業(SC 医科学委員会)

ア) 各種大会における救護スタッフ派遣および救護活動

イ) 代表選手メディカルチェック事業

ウ) 外傷・障害予防のための啓発事業

- ① 登録選手向け医科学講習会(選手スタッフ合同ミーティング) 2 回
- ② クライミング医科学講習会

エ) 調査、研究事業

- ① 障害実態調査
- ② 学会活動(日本臨床スポーツ医学会ほか)

オ) JSP0 公認スポーツドクター、アスレチックトレーナー養成支援(受講希望者の推薦及び代表者協議会への出席)

(7) スポーツライミング普及事業(SC 普及委員会)

ア) ジャパンツアー

開催時期: 2023 年 6 月、9 月~12 月

ボルダー: 6 大会、リード: 4 大会、スピード: 3 大会

イ) 体験会(ANYONE CAN CLIMB!)

かえつ有明中・高等学校山岳部に体験会を 2 回実施(8 月・9 月)

ウ) 公認大会の管理

ボルダー: 1 大会、リード: 1 大会、スピード: 4 大会

(8) ドーピング防止事業(アンチドーピング委員会)

ア) ドーピング防止思想の普及・啓発・教育など

- ① ドーピング検査実施(JADA に委託)
- ② ドーピング防止講習会開催
- ③ T U E(治療目的使用に関わる除外措置)申請の支援
- ④ ADAMS(アンチ・ドーピング管理システム)登録選手への管理支援

(9) 倫理研修会事業(ガバナンス委員会、アンチ・ドーピング委員会)

AD・倫理研修会の開催(随時)

(10) ユニバーシアード関連(全日本大学スポーツクライミング協会)

JOC 主催委員会等出席

(11) 国際連盟役員獲得支援事業

スポーツ庁から JOC 経由で委託を受けて実施した。

3. 登山関連競技会運営事業

(1) 山岳スキー、(山岳スキー委員会)

① 第17回 SKIMO 日本選手権黒部・宇奈月温泉大会 2024年2月18日(日)

シニア	男子	女子
第1位	島徳 太郎	田中 友理恵
第2位	宮津 旭	臼井 夏海
第3位	平林 安里	堀部 倫子

ジュニア	男子
第1位	滝澤 漣

ユース	男子	女子
第1位	笹川 勇太	田邊 美藍
第2位	Jaewon Jung (韓国)	
第3位	藤井 駿杜	

② ISMF ワールドカップ選手派遣

第1戦	Val Thorens (フランス)	2023年11月24日～11月26日
第2戦	Arinsal-La Massana (アンドラ)	2024年1月20日～11月21日
第3戦	Boi Taull (スペイン)	1月27日～11月28日
第4戦	Villars sur Ollon (スイス)	2月2日～2月5日
第5戦	Val Martello (イタリア)	2月22日～2月25日
第6戦	Schladming (オーストリア)	3月2日～3月3日

③ 第17回 SKIMO 日本選手権 白馬大会 八方尾根スキー場

2024年3月16日(土)～3月17日(日)

ミックスリレー選考タイムトライアル

シニア	男子	女子
第1位	島 徳太郎	田中 友理恵
第2位	平林 安里	滝澤 空良
第3位	宮津 旭	臼井 夏海

ユース U18 男子
第1位 笹川 勇太

スプリント

シニア	男子	女子
第1位	島 徳太郎	田中 友理恵
第2位	平林 安里	滝澤 空良
第3位	遠藤 健太	臼井 夏海

ジュニア

第1位 滝澤 漣

ユース U18	男子	女子
第1位	笹川 勇太	田邊 美藍

⑤ ISMF(国際山岳スキー連盟)世界選手権派遣支援 (アジアから世界へ変更)

(2) スカイ／トレラン普及・振興

① (一財)日本トレイルランニング協会、日本トレイルランナーズ協会、(一社)日本スカイランニング協会等との連携強化とトレラン事業の調査・協力

4. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業(国際・アルパインクライミング委員会)

ア) 国際交流

① 訪日する外国登山代表団との交流

8月18日(キルギス共和国登山・クライミング連盟が、JMCSAを訪問し、日本とキルギスの登山事情の意見交換をした。)

② UIAAアイスクライミング選手権派遣支援

(2) 登山医・科学支援事業(登山部医科学委員会)

ア) UIAA MedCom

① UIAA MedCom Meetingへの出席

イ) 支援している医科学的諸事業

① JSMM国際認定山岳医研修会

② NPO富士山測候所を活用する会

③ JSMM登山者検診ネットワーク

④ 夏山リーダー制度、インターハイ支援

ウ) 調査研究事業

① 医療支援を視野に入れた学校登山の実態調査

エ) 山での応急手当講習会

10月21日(土)～22日(日) 神奈川県立山岳スポーツセンター
参加者 23名 (受講者 16名、スタッフ 7名)

5. 自然保護研究調査事業

ア) 研修及び研究会

① 令和5年度自然保護委員総会(第45回山岳自然の集い)

(リアルおよびWEB利用のhybrid会議&講演会)

6月15日(木) JSOS 3F 会議室とWeb 会議 参加者 15名

② 全国自然保護委員会委員長会議および自然保護の集い

2023年11月23日(木) JSOS 3F 会議室とWeb 会議

参加者 50名

③ 2023年度山岳自然環境研究調査

神奈川岳連主催 丹沢山塊 二の塔下ヤマトタケルの足跡付近

2023年10月22日(日) 自然保護指導員フィールド研修会

参加者 JMSCAより3名、他神奈川県山岳連盟関係者

④ 自然保指導員フィールド研修会

6月10日(土)～11日(日) 三ヶ峠山荘で実施

参加者 JMSCAより8名、他山梨県山岳連盟関係者

⑤ 第12回自然保護指導員研修会(リアルおよびWEB利用のハイブリッド会議)

2024年1月28日(日) オリンピックセンター 参加者数 44名

イ) 自然保護の啓発

① 自然保護指導員制度の推進

② 自然保護広報資料の出版

③ 全国環境月間(6月)の実施

④ 環境省・自然公園指導員制度への協力

・自然公園指導員の推薦

⑤ 山岳自然保護関係団体と連携して自然保護委員会活動の推進

・山岳団体自然環境連絡会への参加

・山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進

・各種環境保護事業の後援と派遣

⑥ 日本オリンピック委員会主催「スポーツと環境会議」への参加・協力

全国山岳自然保護関係活動の集約とHP広報

6. 共益事業

(1) 広報等

ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第649号(4月号)～第660号(3月号)

イ) HPのタイムリーな更新 (<http://www.jma-sangaku.or.jp>)

(2) 会議等

- ア) 令和4年度定時総会 2023年 6月18日(日)
 令和5年度臨時総会 2023年11月26日(日)
 2024年 4月14日(日)
- イ) 理事会 原則として毎月第二木曜日
 6月は総会の15日以上前の日
 臨時理事会 随時
- ウ) 全国理事長会議 2024年2月11日(日)
- エ) 全国参与会 2024年2月 千葉県(第59回全日本登山大会開催時)
- オ) 常務理事会 原則として毎月第二木曜日
 臨時常務理事会 随時
- カ) 委員長会議
- キ) 常任委員会 毎月1回以上開催
- ク) 事務局会議(随時)
- ケ) 山岳4団体懇談会
- コ) (一財)全国山の日協議会(随時)
 - ・上部団体 評議員会・理事会・運営委員会への出席
 - ・第6回「山の日」記念全国大会 8月10日(木)～11日(金)おきなわ大会

サ) 国際会議

- ① 国際山岳連盟(UIAA)理事会 →参加せず
- ② 国際山岳連盟(UIAA)総会 →参加せず
- ③ アジア山岳連盟(UAAA)理事会 →参加せず
- ④ アジア山岳連盟(UAAA)総会 2023年10月30日から31日参加
- ⑤ 国際山岳連盟登山部会 →参加せず
- ⑥ 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)総会 2024年3月22日～23日参加
- ⑦ 国際山岳スキー連盟(ISMF)総会 2023年10月14日～16日参加

(3) 総務等

- ア) 令和4年度定時総会 2023年6月18日(日)
 令和5年度定時総会 2024年6月23日(日)
- イ) 令和5年度役員・会員名簿及び賛助会員名簿の作成・発行
- ウ) 議事録の整備
- エ) 山岳保険のPR(山岳雑誌広告、登山月報広告、マスコミ各社他)
- オ) 組織運営の円滑化のため、事務局体制の強化を行う。
- カ) JMCA 会員のデータベース化の整備
 (令和4年から6年までJSC組織基盤強化支援事業費を活用)

(4) 財政等

- ア) 財源の確保
 - ① 山岳共済会々員の加入促進
 - ② 賛助会員(個人・団体)の加入促進

- ③ ロイヤリティー収入源の具体策を検討
 - ・スポーツクライミングの安全確保を前提とした施設・用具等の安全基準の検討
- イ) 外部資金の導入
 - ① グローバル・パートナーの獲得
 - ② 寄附金の獲得
 - 税額控除を活用して推進する
 - ③ 組織基盤強化助成金の利用(令和6年まで)
 - ④ 第一次基金の募集：令和6年2月6日～3月末日振込
- ウ) 常務理事会において毎月の収支報告
- エ) 国民スポーツ登山振興基金の管理
- オ) 山岳共済会（事務センター）の運営管理・山岳共済会会計
- カ) 監事監査 期末監査：2024年5月30日(木)、31日(金)
中間監査：2023年11月2日(木)
- キ) 中間決算と補正予算について 11月
- ク) 2024年度予算案の作成 2024年1月

以 上